

小・中学校共通・学校管理職用アンケート回答の傾向

1. 学校の情報〔問1関係〕

◆通学方法

- ・小学校は、全児童が徒歩通学である。
※一部の地区の児童で、通学班の集合場所等まで送迎している事例もある。
- ・中学校では、自転車通学の割合が高くなっている（櫻台中学校は、全生徒徒歩通学）
【自転車通学の割合 東中学校・・・65% 西中学校・・・93%】

◆教室数

- ・普通教室として利用可能な教室数は、次のとおり。
 - ▼5室以下 西中学校、八和田小学校、竹沢小学校
 - ▼10室以上 小川小学校、大河小学校、みどりが丘小学校、東中学校、櫻台中学校、東小川小学校
- ※普通教室への転用可能教室数を確認する調査であり、施設管理上の余裕教室とは異なります。

2. 学校運営全般〔問2関係〕

◆学校運営に学校規模が与える影響

	小学校	中学校
よい成果	(1)教育目標への組織的な取組 (6)地域・PTAとの連携を図ること	(1)教育目標への組織的な取組 (4)施設の安全点検 (5)児童等の安全対策・安全指導
概ね同数	(4)施設の安全点検 (5)児童等の安全対策・安全指導	(2)多様な指導形態を取り入れること (6)地域・PTAとの連携を図ること
課題	(2)多様な指導形態を取り入れること (3)多様な人間性に触れる機会等	(3)多様な人間性に触れる機会等

※朱字は、教職員用アンケートでも課題として挙げられた項目

3. 教育活動〔問3・4関係〕

◆児童等数の減少が生じた場合の課題

A 学力向上について

課題	
	①多様な考え方を学ぶこと
	②学習形態の固定化・制限（アクティブラーニング、TT、専科による授業）
	③競い合う意欲の低下
	④児童等の評価の固定化
	⑤教職員不足
	⑥その他
	（教員の意欲低下、一教科一教員による指導力の差、複式学級での授業の困難さ、他学年にまたがる教材研究等のための教員の負担増）



学校規模拡大の有効性

結果	規模拡大の有効性を認める内容が多かった（アンケート回答参照）
条件付	1学級30人程度なら有効。
関係ない	教員の指導方法の工夫で補える。
現状がよい	後述の「現状を肯定する意見」参照
有効ではない	（理由の記載なし）
その他	「課題があまりない」と回答。無回答。大規模校よりきめ細かな指導ができる。

B 健やかな体をつくることについて

課題	①学習形態の固定化・制限（体育、クラブ、ゲーム領域、団体競技） ②競い合う意欲の低下（学級内の立場の固定化） ③多様な部活動が成立しない ④運動会の運営、運動時の迫力不足、水泳や持久走大会の安全配慮 ⑤その他（思考の希薄化、運動の得手、不得手の二極化）
----	--



学校規模拡大の有効性

結果	規模拡大の有効性を概ね認める内容が多かった（アンケート回答参照）
条件付有	1学級30人程度なら有効。
関係ない	教員の指導方法の工夫で補える。
有効ではない	（理由の記載なし）
その他	個人差に応じた指導等が必要である。 「課題があまりない」と回答。無回答。大規模校よりきめ細かな指導ができる。

C 豊かな心を育むことについて

課題	①多様性に対する認識。 かかわれる教員の限定による多様性にふれる経験不足 ②人間関係の固定化によるトラブルの発生、長期化（児童等・保護者） ③学習形態の固定化・制限（部活動含む）
----	--



学校規模拡大の有効性

結果	規模拡大の有効性を概ね認める内容が多かった（アンケート回答参照）
条件付有	1学級30人程度なら有効。
関係ない	後述の「現状を肯定する意見」参照
有効ではない	（理由の記載なし）
その他	多くの大人が接する必要がある。

「現状を肯定する意見」

（ABC共通）

- 本校の場合、20年後の予測でも1学級の児童数が20名程度となっているので、3項目(A・B・C)ともに個々へのきめ細やかな関わりが可能になると考えられる。競争心の欠如や人間関係の固定化等、様々な課題も生じてくると思われるが、確かな力を育むための環境として、決して悪いものではないと考える。

（AC共通）

- 現行の4学級並行が適している。

その他の対策（主な意見）

学力向上	学校間の交流や行事等の合同開催。他校への教員の授業参観。 少人数指導、個に応じた指導。
健やかや体をつくる	他学年と合同体育。地区との合同運動会。 総合型地域スポーツクラブ等の設立。複数校での合同部活動。
豊かな心を育む	多様な人との触れ合いの場の設定（他校との交流。宿泊学習の学年幅の増。 学校外（地域や保護者）の教育力の活用。担任外授業の実践）

4. 学校行事について〔問4・5関係〕

◆現在の成果と課題

	右記以外の学校	小川小学校・東中学校
事例・取組内容	八和田米作り、食育教育、林業体験 卒業式、避難訓練、立志式 縦割り活動（通学班、清掃、給食等） 昔遊び・和紙絵教室（地域協力）	体育祭
成果	一人一人が主役になれる。 一人一人が十分に体験できる。 児童等と豊かな関わりが持てる。 地域の協力を得て行う活動がしやすい。	多様な選択肢を提供できる。 人間関係の固定化を防げる。 施設面や教具などがゆとりをもって活用。
課題	競い合う児童の数が少ない。 行事、清掃活動等の人手不足、負担増 少ない男子職員への負担過重 生徒の男女のバランスが悪い。 行事の盛り上がり欠ける。 固定化された人間関係がほぐされない。	行事の迫力減少 清掃活動等での負担増 健診に時間がかかる。 体育祭で分割するクラスがあることから クラスの帰属意識が薄れる。
その他	特に課題はない。	

◆児童等数の減少が生じた場合の課題

- 課題
- ①運動会等の行事の運営に支障が生じる。
 - ②教育効果の減少
 - ③児童等のモチベーションの低下
 - ④行事の費用負担の増加



学校規模拡大の有効性

結果 規模拡大の有効性を認める内容が多かった（アンケート回答参照）

意見 規模拡大により、学校独自の行事等は再検討を要する。
行事は学校内だけのものとは限らず地域と密着している。

その他の対策（主な意見）

他校（小中学校間含む）、他学年、地区との行事等の合同実施。

5. 安全対策について〔問6・7関係〕

◆現在の成果と課題

	右記以外の学校	小川小学校・東中学校
事例・取組内容	避難訓練 登下校の指導徹底 児童数に比して広い校庭を利用した外遊び 通学状況等の把握	右一列登校 特になし
課題	一人で下校する距離の増加 登下校指導などで均等に教員を配置できない 清掃、部活動の教員負担増 校区で死角になる場所が多い。	校区の安全管理面での教員の負担増

◆児童等数の減少が生じた場合の課題

- 課題
- ①通学班や下校班の編成（一人で下校する距離の増加、学年バラス等）
 - ②施設規模に比して職員数が整わない（危険箇所の見落としにつながる）
 - ③校内の美化
 - ④登下校時の安全点検、指導に対する教職員不足



学校規模拡大の有効性

結果 規模拡大の有効性を認める内容が多かった（アンケート回答参照）
理由として、規模拡大による教職員の増加が挙げられた。
一方、校区の拡大が課題との意見もあった。

その他の対策（主な意見）
見守り隊等への支援依頼。

6. 地域との連携について〔問8・9関係〕

◆現在の成果と課題

	右記以外の学校	小川小学校・東中学校
事例・取組内容	八和田米作り 登下校指導 本の読み聞かせ 資源回収 座禅体験、和紙絵作り	地区対抗大会（児童・保護者） 学習発表会へのPTAの参加 資源回収、除草作業
課題	PTA活動の役員選出、予算編成 PTA役員の負担増、行事の維持 保護者の負担増	児童の選手集め

◆児童等数の減少が生じた場合の課題

- 課題
- ①PTA役員、予算、行事等の成立（会費の増額、収入減、運営縮小）
 - ②学校への協力体制弱体化、人材の減少



学校規模拡大の有効性

結果 規模拡大の有効性を認める内容が多かった（アンケート回答参照）
理由として、規模拡大による人員の増加が挙げられた。
一方、規模拡大に伴う校区の拡大に対する不安もある（保護者同士の連携が疎遠になる。
学校への思いが薄くなる。地域や団体との調整の難しさ。）

その他の対策（主な意見）
PTA関係（役員数削減、小中合同の役員選出、運営精選、会費の増加、行事の地区との共同開催）

7. 部活動について〔問10・11・12関係〕

◆現在の学校規模が与える影響（中学校）

	右記以外の学校	東中学校
部活数等の確保	部員確保ができず廃部等の検討が必要 顧問の確保が困難 部活数を増やすと同学年でチームが組めない。	現在はちょうどよい。 生徒数、教員数の減少により部活動の数を減らさなければならない
活動状況	チーム競技の大会参加が難しい。 向上心が希薄。活動目標が設定困難。 人間関係のトラブル	顧問、生徒とも意欲的。

◆部活動に期待すること（小学校）

	右記以外の学校	東中学校校区の小学校
学校として期待すること	希望の部活動への入部 部活動による教育効果 (適切な人間関係、心身の育成等)	希望の部活動への入部 部活動による教育効果 (努力することの楽しさ等) 部数、部員の増加
児童保護者の意見	選択肢が少ない クラブチームと部活の両方への参加	希望の部活動への入部 区域外就学規定の緩和

◆部活動に期待すること（中学校）

	右記以外の学校	東中学校
学校として期待すること	礼儀、あいさつ、人間関係	忍耐力、調整力、礼儀等
児童保護者の意見	部活を選ぶ際の選択肢がない 部活を頑張らせて欲しい	部活を頑張らせて欲しい。

◆児童等数の減少が生じた場合の課題

- 課題
- ①部活数の減少（クラブチームの選択、続けてきた競技がつづけられない、学校間の差）
 - ②活動へ影響（チームスポーツの部員不足、対外試合への参加不可）
 - ③指導者の確保



学校規模拡大の有効性

結果 規模拡大の有効性を認める内容が多かった（アンケート回答参照）
一方、規模拡大に伴う校区の拡大により生徒の移手段、安全上の課題についての意見もあった。

その他の対策（主な意見）

地域人材の活用（外部指導者の活用）。部活動の社会体育への移行。
学校間の合同部活動。総合型地域スポーツクラブ。拠点校方式。

8. 教育活動の経費について〔問13関係〕

◆児童等数の減少が生じた場合の課題

- 課題
- ①修学旅行、卒業アルバム等の個人負担増
 - ②生徒会費、PTA会費の増



学校規模拡大の有効性

- 結果
- 規模拡大の有効性を認める内容が多かった（アンケート回答参照）
同じ町で同じサービスが提供できないことの見解があった。

その他の対策（主な意見）

校外学習の合同実施。助成の実施（代金の町一部負担、行政バスの活用・定員増）

9. 意見

◆適正規模・適正配置等についての主な意見等

- ・小規模校には、小規模校のメリットがある。
- ・教職員の負担軽減を図って欲しい。
- ・住民感情「おらが学校」の尊重と理解。
- ・スクールバスの活用。
- ・町内中学校が全て2学級以上になるような通学区域の線引き。
- ・学校規模の適正化は必要（バランスのとれた教職員配置。授業研究。教科における複数配置）
- ・具体案
中学校2校、小学校4校(人口等から)
中学校は4学級並行。小学校は2～3学級並行。
中学校を1校。

10. まとめ

- ①各項目の課題に対して、学校規模の拡大は有効であるとの回答が多かった。
- ②校区の拡大に対して、安全面、地域との連携等で不安があるとの意見もあった。
- ③PTA活動や部活動については、多くの学校も共通の課題があった。
- ④「多様な人間性にふれる機会について」は、教職員用アンケートでも課題となっていた。